

会 員 だ よ り

青森県県土整備部河川砂防課 企画防災グループ

「災害復旧事業を担当して」



技師 梅村 豪



技師 高橋 奈穂子

1. はじめに

はじめに、梅村・高橋の自己紹介をさせていただきます。

【梅村】

私は、平成11年4月に青森県庁に採用され、今年で入庁11年目を迎えているわけですが、これまでの10年数カ月の歩みを振り返り、実際どんな仕事をしてきたのかということを少しご紹介したいと思います。

まず始めに新採用から3年間、そして昨年度までの3年間についてですが、県の出先機関で主に河川や砂防などの業務に携わり、設計書作成や現場監督を行ってきました。

現場に行くときは、経験豊富な先輩方に同行してもらい、単純に設計図面どおりに施工されているかの確認だけではなく、現場に即した施工が出来るよう丁寧に指導して頂き、とても充実感の残る仕事を送ることができました。

災害は、この新採用の時に災害査定設計書作成の手伝い、被災水位の痕跡写真撮影のポール持ちなどを行った経験があります。当時は、痕跡写真を何のために撮っているのかよく分からないまま作業をしていた記憶があります。

新採用から3年間を県の出先機関で過ごした後は、県の人事交流の一環として当時の企画振興部市町村振興課（現在の総務部市町村振興課）に配属され、市町村財政に関する業務を担当しました。なぜ？と思うくらいの事務仕事で、普通交付税の算定や決算統計（正式には「地方財政状況調査」

といい、普通会計決算（一般会計+公営企業会計以外の特別会計）及び公営企業会計決算を取りまとめるもので、調査結果は財政健全化団体の判定などに用いられています）といった業務を2年間行ってきました。

その後は、本庁の都市計画課に配属され、市町村の下水道に関する業務を担当させて頂き、下水道事業の認可や本省などから送られてくる調査物などの業務を2年間行ってきました。

下水道の現場経験が無かったため、市町村からの問合せには自信もなく、恐る恐るといった感じで対応していました。

そして、今年度から本庁の河川砂防課に配属されました。主に災害復旧事業を担当し、災害査定 の随行や設計変更の協議、市町村成功認定など、とても貴重な経験をさせて頂いているところです。

災害復旧事業は、他事業と比べ地方公共団体の負担が軽く非常に有利なので、災害の制度をたくさん勉強して、少しでも青森県民のために貢献出来るよう頑張っていきたいと考えています。

以上で、簡単ではありますが、梅村の自己紹介とさせていただきます。

【高橋】

続きまして、高橋の紹介をさせていただきます。これまで2つの出先機関でいくつかの災害復旧事業を経験し、今年度4月に県庁へ着任しました。

私にとって初めての災害復旧事業は、採用2年目の港湾災害でした。実務では何も貢献できませ

会員だより

るので、図面や設計書作成などとても簡単なお手伝いをするだけでしたが、何人もの事務所の職員と県庁随行者が、査定官と立会官の後について歩き、時には取り囲むという光景が印象的でした。当時の私にとっては、少し面白く、奇妙な感じに思われましたが、今となっては、災害査定の一環を身近に感じることができ、とても貴重な機会だったと思っています。採用3年目、私は別の出先機関へ異動し、初めて河川管理業務を担当しました。この時、雨量水位の重要性を知り水防体制の本当の姿、河川災害の現場、災害査定を経験することになります。単災現場を担当し、説明者として緊張したことも今ではいい思い出です。

そして採用6年目の今年度、県庁の随行者として査定に付かせていただきましたが、また別の方向から災害復旧事業を経験することができました。事務所にいるときには考えもしませんでした。査定へ向けた細かい調整、本省との協議などを経験してみて、県庁は査定官・立会官と申請者との間を取り持つ緩衝材みたいな存在だと思いました。申請側も査定側もどちらも譲れない意思を持っていますので、お互いの意図が伝わりきれていない部分を補ったり、どこで折り合いをつけるのかを調整したり、とても重要な役割を担っているのだと感じました。私もそうなれるよう、知識

を深めていかなければと感じる毎日をご過ごしております。

【担当業務】

それでは、当課の担当業務について紹介させていただきます。当課では河川・砂防・海岸・ダム事業と災害復旧事業を担当しております。その中の企画防災グループでは、災害復旧業務のほか、庁内外からの調査取りまとめ、河川法に係る技術協議、水防、防災に関する業務、水質汚濁防止に係る業務などを担当しており、グループマネージャーを中心に7名のメンバーで担当しています。

2. 青森県の概要

青森県は本州最北端に位置し、太平洋・日本海・津軽海峡の三方を海に囲まれております。県中央部に奥羽山脈が南北に連なり、北方に伸びて夏泊半島、さらに陸奥湾を越えて下北半島へと続きます。面積は9,644.21km²であり、うち66%は森林が占め、人口は約138万人です。

本県の一級河川は、白神山地から津軽平野へ流れる岩木川水系と、岩手県から県南の都市八戸市へ流れる馬淵川水系、八甲田山系から小川原湖へ流れる高瀬川水系の3水系あり、一級二級合わせた県内河川延長は2,083kmであり、内県管理延長



迫力の青森ねぶた祭り

会員だより

は1,928kmとなっています。

気候は冷涼で短い夏と長い冬が特徴で、太平洋側と日本海側及び陸奥湾岸地域によってかなり異なります。日本海側は冬に季節風の影響を強く受け、内陸部は多雪地帯となっており、太平洋側は春の終わりから夏にかけて吹く偏東風（やませ）のため低温の日が多いのですが、雪はあまり降りません。陸奥湾沿岸は、年平均気温も低めで、積雪量も多くなっています。古くから災害が多く発生しているところです。

今年12月に東北新幹線が青森まで延伸されます。青森県は季節の移り変わりがはっきりして、どの季節も自然が美しいのが特徴です。弘前さくら祭り、青森ねぶた祭り、秋の奥入瀬溪流、世界遺産の白神山地など、ぜひ青森県へ訪れてみてください。

3. 近年の災害発生状況について

平成20、21年災は、少雪に加えて降水量が非常

に少なく、決定額及び件数としてはこれまでで一番、二番目に少なくなっています。平成20年災は台風の影響がなく、7月末の地震による道路災害の実質3箇所のみとなっています。また平成21年災も、2月中旬の暴風・冬期風浪による海岸・道路災害、4月下旬、7月中旬の豪雨による河川・道路災害48箇所となっています。グラフは平成5年災からの災害復旧事業の推移を表しております。

平成21年災の気象名と気象状況を記載します。

- 「平成21年2月20日から21日にかけての冬期風浪・暴風による災害」

2月16日頃から冬型の気圧配置となり雪や曇りの日が続き、20日の夕方には北海道付近で低気圧が発達したことから強い冬型の気圧配置となり、暴風雪の大荒れの天気になりました。暴風雪によって、外ヶ浜町蟹田観測所（気象庁）では最大瞬間風速が県史上4位となる40.8メートル/毎秒を

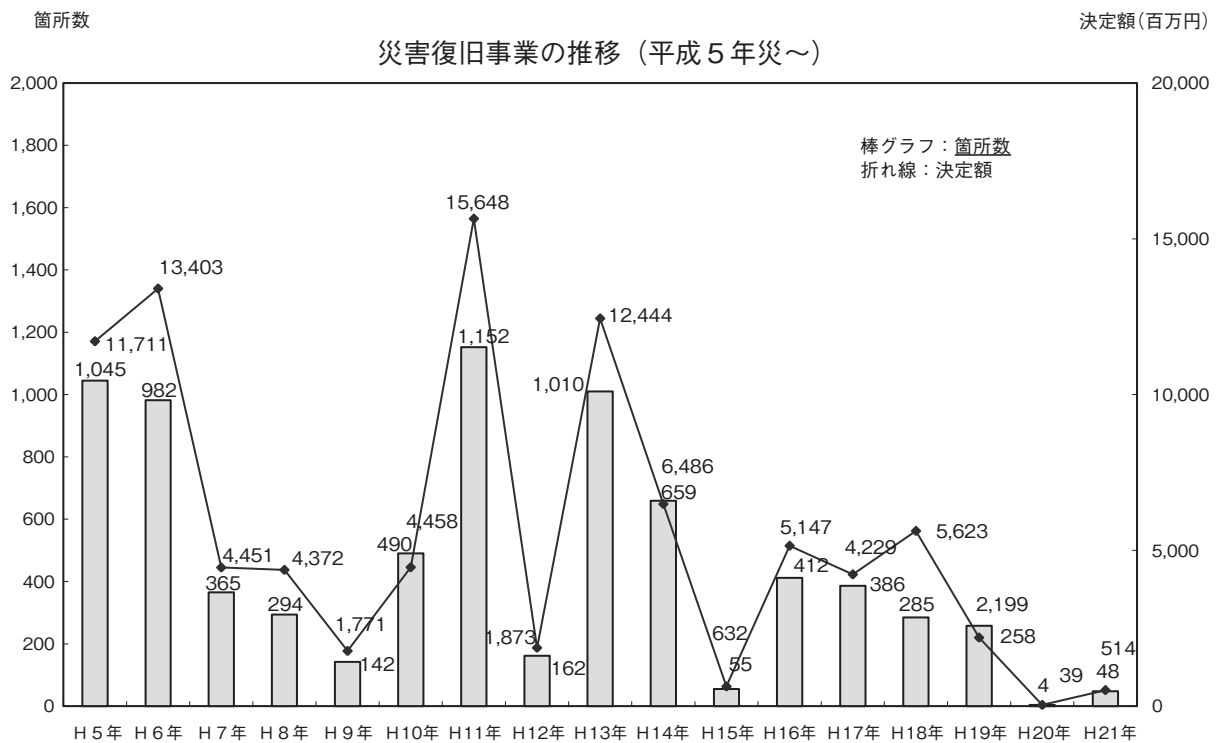


図 平成5年災からの災害復旧事業の推移

会員だより

観測するなど猛吹雪に見舞われました。

- ・「平成21年4月25日から26日にかけての豪雨による災害」

4月25日から26日にかけて低気圧の影響により、三八上北、下北を中心に大雨となり、26日には上空に寒気が入り込んだため、この時期では珍しく雨から雪に変わり、津軽と三八上北を中心に積雪を観測しました。降水量は、日雨量が各地で100mmを超える大雨となり、各河川は増水し、河岸高の5割を超える水位となり、河岸が欠壊するなどの被害が発生しました。

- ・「平成21年7月18日から19日にかけての梅雨前線豪雨による災害」

梅雨前線の北上や低気圧の影響により、県内はまとまった雨となりました。特に、18日から19日

にかけては梅雨前線上の低気圧が県内を通過し、津軽地方では最大24時間雨量が100mmを超える大雨となりました。

4. 査定の迅速化・効率化へ向けた取り組み

近年の災害の減少により、災害復旧事業に不慣れな職員が増える中、人員は削減され、また、2カ月以内の査定実施を求められていることから、スピードアップを図るために、査定までの手続きの各段階においての課題を抽出し、検討しております。その一つとして研修会や担当者会議の充実を図っています。

表は平成21年の研修・講習会の実施状況と近年の災害発生から査定までの日数を表しております。

表 研修・講習会の実施状況

実施月	対 象	参加者数
4月	県市町村職員	101
7月	市町村職員・測量設計業協会会員	132
10月	県市町村職員（主査・技師級）	16
10月	県市町村職員（主幹～課長級）	45
11～12月	市町村職員	91

表 近年の災害発生から査定までの日数

年災	被災年月日	査定月日	日数
19	豪雨による災害（平成19年8月8日～10日）	10月2日～4日	53
	台風9号による災害（平成19年9月7日～8日）	11月5日～9日	58
	豪雨による災害（平成19年9月16日～18日）	〃	48
	豪雨・風浪による災害（平成19年11月11日～12日）	12月17日～20日	35
20	地震による災害（平成20年7月24日）	9月11日～12日	49
	豪雨による災害（平成20年8月29日）	〃	13
21	冬期風浪・暴風による災害（平成21年2月20日～21日）	4月16日～17日	54
	豪雨による災害（平成21年4月25日～26日）	6月15日～17日	50
	梅雨前線豪雨による災害（平成21年7月18日～19日）	9月16日～18日	59

会 員 だ よ り



研修の様子

5. おわりに

今年 4 月から今までを振り返ると、災害発生から災害査定の随行までの業務、国土交通省防災課への設計変更協議や事前打合せなど、災害復旧事業を担当する者として大変貴重な経験をすることができました。そして、日頃から災害の発生に備え、災害復旧に関する知識を向上させていかな

くは、と強く感じさせられました。

最後に、災害査定で外が暗くなるまできめ細かな御指導を頂いた、災害査定官、立会官をはじめ、設計変更の協議で迅速な対応をして頂いた国土交通省防災課の皆様に対し、この誌面をお借りして御指導・御協力を賜り深くお礼申し上げます。

